

デジタルホームを実現するネットワーク技術

Network Technologies for Digital Homes

巻頭言

多様な視聴環境を提供するデジタルホーム

Digital Homes Providing Various Audiovisual Environments

わが国では2000年のBS(放送衛星)デジタル放送に続き、2003年に地上デジタル放送が開始されました。2011年にはアナログ放送が終了し、すべてデジタル放送へ移行する予定となっています。この数年間、多くの家庭で、従来のアナログテレビ(TV)が薄型のデジタルTVに置き換えられ、レコーダやプレーヤなどのデジタル機器と併せて、高品質のデジタル映像音声を楽しむことができるようになってきました。デジタル化の波は世界的に広がり、北米や欧州はもちろんのこと、新興国も次々とデジタル放送への移行が進行しています。また、放送に限らず、高速の有線あるいは無線の通信網が整備され、ネットワークからも家庭に多くのデジタルコンテンツが流れ込んできています。

このようなデジタル化の流れのなかで、デジタルホームということばを耳にするようになってきました。デジタルホームは、複数のデジタル機器を接続して家庭内のデジタル視聴環境を構築し、多様なデジタルコンテンツを楽しめるようにすることを目的としています。

一方で、映像コンテンツのデジタル化は、著作権保護に伴う録画及び複製の問題や、複数の画像圧縮方式への対応、伝送・記録フォーマットの違い、セキュリティなど、ユーザーが負担なしにコンテンツを楽しめるために解決しなければならない技術的な課題も多々あります。そのため、デジタルホームの実現には、デジタル機器間を接続するための高度なインタフェース技術が必要であり、統一的な規格によってデジタル機器の入出力やコンテンツの保護を規定し、その機能を搭載したデジタル機器を同じタイミングで市場へ投入することが望まれます。

東芝は、ネットワークやブリッジメディアなどにより種々のデジタル機器を容易に接続するデジタルインタフェース技術の開発に、早くから、積極的に取り組んできました。この特集では、ユーザーが時間や場所を選ばずにデジタルコンテンツを自由に楽しめるデジタルホームを実現できる、ユーザーの利用形態に合わせたいくつかの事例を紹介します。デジタル機器を接続することで、ユーザーへ新たな付加価値を提供する技術の一端を理解していただければ幸いです。

安木 成次郎
YASUKI Seijiro